

鉄筋技能士めざし 150 人が受検

3 日間にわたり技能検定実技試験を実施

組合では2月11日と15日、16日の三日間にわたり、東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校で令和元年度後期「鉄筋技能検定実技試験（組立作業）」を実施しました。今年度は三日間で1級119人、2級16人、3級15人の合計150人が受検し、それぞれ合格めざして真剣な表情で課題に取り組みました。

試験課題はいずれも曲げ加工された鉄筋を用いて、図面や仕様に従って基礎・柱・梁の取り合い部の組み立てを行うものです。標準試験時間は1級が1時間40分（延長30分）、2級が1時間20分（同20分）、3級が1時間30分（同20分）で、標準時間を超えた場合は超過時間にに応じて減点されます。今回は1級に女性1人、2級に4年目のベトナム人技能実習生1人、3級に高校生5人も受検しました。

これに対し、戸田裕雄副理事長を首席検定委員とする24人の検定委員・補佐委員は、組み上がった鉄筋の配筋精度や仕上がり、結束忘れ、作業態度などについて厳しくチェックし採点していました。戸田副理事長は「1級受検者が100人を超え、2級や3級も例年より多く、全体的に受検者数が増えており、職人不足と言われる中でも見通しは明るい」と期待を寄せました。また、会場には今回も元請各社の購買担当者らが視察に訪れ、試験の様子を熱心にも守っていました。合格者の発表は2月9日に行われた学科試験の結果と同じく3月13日です。





採点状況